

2023
WINTER
MINSAI
CENTER



vol.
93

ダルニー

通信

特集 民際センターのこれから



2p. 支援者様に支えられて

3p. EDF International について

4p.5p. 支援者様とカンボジア北部ぐるり旅！

6p. 学生団体「SWITCH」と民際～SWITCH運動会～

7p. タイ訪問記 ～細川さん訪問記～

8p. 民際センターの職員紹介

9p. ボランティアさん紹介

10p. プロボノ募集

11p. **連載6** 今は昔「民際センター物語」

12p. 事務局掲示板+事務局 QA+編集後記

民際センターのこれから

民際センター 理事長

秋尾 晃正

ウクライナへの軍事侵攻開始後、対ロシアへの経済制裁を契機とし、全世界の市民社会に変化が起こり、民際センターもそれらに対応すべき事態に直面しています。石油など自然資源を輸入に頼る日本のみならず、支援対象国であるメコン 5 国でも生活必需品等の物価が上がり、日常生活に大きな支障をきたしています。特に奨学金受給生の貧困家庭では一段と厳しさを増している状況です。さらに、昨今の円安の影響を受け、奨学生たちはコロナ禍後に安堵する間もなく、生活費の上昇と奨学金額の減少という二重の課題に直面しています。

団体の変革に向けて

この世界的な社会変化に対応するには、外的要因への自助努力だけでは難しい状況です。言い換えれば、支援者様のご協力が無ければ、決して民際センターの変革は叶わないと実感しております。これからどのように変わるべきかが課題であると同時に、非政府組織として、安易に税金や国の補助金には頼らず、すべて民の力で課題解決を目指すという伝統を保持し、設立時に命名した「民際」という団体名の思想を全うしていく所存です。

5つの特質

民際センターは、①教育に特化した NGO であり、②一人のドナーが一人の生徒を支える奨学金制度を支援活動の主軸とし、③各国事業所（EDF）はすべて当該国の経営者とスタッフで運営されています。また、④支援国の教育省を通し、地方の教育委員会、学校に EDF の担当者兼奨学金担当教師がいます。⑤この担当教師らが生徒の家庭状況などを把握し、奨学生を選考しています。こうした制度は世界の他団体を探しても見つけることはできないでしょう。

これから

22 世紀の素晴らしい社会のありかたを共に模索する地球市民と連帯し、変革への道を探りたいと思います。教育支援を通して貧困削減を目指し、平和構築に貢献する設立当初の目的は色褪せるどころか、まさに今だからこそ、その必要性を感じている次第です。

EDF Internationalについて



組織図

民際センター（EDF-Japan）の組織紹介として、グループを束ねる EDF-International（以後 EDF-I）についてご紹介します。EDF-I は民族・人種・文化・経済発展の格差を超えた EDF グループの国際機関でありタイ政府に登録した組織です。メコン5ヶ国の実務担当最高責任者で構成される EDF-I の理事会をグループの最高議決機関として位置付けております。

設立の経緯は 1995 年の EDF-L（ラオス事業所）の活動開始がきっかけでした。EDF-T（タイ事業所）は税制優遇措置財団のため海外へ送金することができず、1996 年にタイの内務省に財団 MCB の設立を申請し、認定されました。2007 年に EDF-C（カンボジア事業所）が EDF グループに加わり、2008 年に財団 MCB の名称を EDF-I に変更しました。

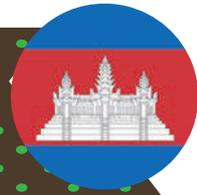
理事の構成は、民際センターの秋尾を理事長として、EDF-T のサンペットが副理事長を務め、EDF-L、EDF-C 各国の代表責任者と EDF-T の ICT 担当者と財務担当部長も理事を務めております。2013 年の EDF-V（ベトナム事業所）、EDF-M（ミャンマー事業所）設立に関しても、EDF-I が大きな役目を果たしてきました。

タイを除くと、現実的には各国の ICT 担当や財務担当の採用は大変難しい状況です。専門職の人財は少なく、当然ながらある程度の人件費も必要であり、採用しても離職率が高いことが問題でした。従いまして、EDF-T の人財活用が EDF グループでの最善策となりました。円高時代に EDF グループの体制を整備できたのが幸いでした。

しかしながら円安傾向にあるこれからの時代、どのようにして EDF-I の事業運営を円滑にできるのかが課題となっています。まったく予断を許さない状況ではありますが、文化も通貨も異なる EDF グループは EDF-I を介して一つにまとめ、円滑に事業を行っていきたいと思っております。



支援者様と カンボジア北部ぐるり旅!



スケジュール

4日間でシェムリアップ→ストゥントレン州→クラチエ州→プレアヴィヒア州を訪問

今回カンボジアへご案内した古川様が初めて渡航のご希望を伝えて下さったのは、2023年1月のことでした。民際センターの職員である私高野から EDF カンボジア事業所へ渡航について相談をすると、事業所所長のチャンディーから「日本から来る支援者様を大いに歓迎します」という心のこもった返信があり、そこから早いスピードで渡航に関する事が決まりました。

準備段階では EDF カンボジア事業所と協力してスケジュールの組み立てなどを行っていましたが、一貫して、渡航される支援者様にはカンボジアのことをもって知ってほしい、カンボジアの文化や人を好きになってほしいというその一点だけを考えて計画を練りました。

現地からの熱烈な歓迎

今回の滞在ではコーサン中学校、コホコン中学校、サンコムツメイ中学校、プリア・カーン 中学校など州をまたいで複数の学校を訪れました。古川様は、民際センターを通じてその中のひとつのコホコン中学校へ女子寮を寄贈してくださっています。

どの学校でも生徒・教師・学校関係者・州の役人などが総出で迎えてくださり、皆手に持った日本とカンボジアの国旗を振りながら熱烈に歓迎してくれました。土日に訪れた学校もありましたが、驚くべきことにそれでも生徒を含め皆さん総出で歓迎してくれたのです。

学校では生徒や教師らが作ったクメール料理やお菓子をごちそうになりました。学校がお休みでも、古川様を歓迎するために皆さんが力を合わせ、私たちが訪れる時間に合わせて温かい食べ物を振る舞ってくれたのです。テーブルに並んだメコン川の大魚やナマズのフライ、日本で見るより 1.5 倍は大きいアボカドやドラゴンフルーツなど、古川様は 1 点ずつ楽しんで召し上がっていました。そしてその隣で同じく楽しそうに校長・教師の方たちが食事をしていて、学校関係者・支援者様・民際センター（日本・カンボジア）の職員が同じ食卓を囲むというとても素敵な時間を過ごすことができました。



旗を振る学生たちから歓迎される古川様とご子息

寮生たちの生活

古川様が寄贈された女子寮では 16 人ほどの生徒が生活していました。寮生の中には、姉妹で寮暮らしをしている子どももいて、助け合って暮らしているそうです。また、寮生は、平日は学校の敷地内にある寮から学校へ通い、週末は実家に戻り、日曜日の午後になったらまた寮に戻ってくるという生活をしているそうです。食事は女子寮にあるキッチンで料理することもあれば、数人で息抜きに外出し屋台で外食することもあるそうです（屋台の食事は、100 円～150 円ぐらいで食べることができます）。

女子寮は貧困家庭から遠方通学する生徒に「住」を提供し通学の困難さを解決するものですが、家から離れて暮らす間は朝・昼・夕の「食」も必要です。寮生は、お昼ご飯を含め自分で食事を準備する必要があります。EDF カンボジア所長のチャンドイーは一部の寮生にとってこの「食」を確保することが課題であると語ってくれました。基本的に寮生は実家に戻るたび 1 週間分の食料を持って寮に戻りますが、一部の貧しい家庭の子どもは必要な量の食事を持って帰ることができず、特にお昼ご飯時などお腹を空かせていることがあるということでした。

大変厳しい現実に、まだまだ民際センターがメコン 5 ヶ国の子どもたちに出来ることはあるのだと確信しました。同時に、女子寮に暮らす 16 人の生徒たちの笑顔を見て、女子寮建設をはじめとした日本からの支援は多くのカンボジアの生徒の未来を切り開く力になっていることを実感しました。

教師が作った料理を振る舞ってくれました



古川様が寄贈された女子寮の前で集合写真

ユニークな学生団体 「SWITCH」と民際センター

一学生団体 SWITCHの理念は「1人でも多くの人に、"切り替わるきっかけ"を届け、社会を活気づける波を起こす」です。また、「いつの時代でも人々に本当に必要なことは何なのかを追求して、常に社会を活気づける存在でありたい」というビジョンを掲げています。一つの大学の組織でなく、様々な大学から学生が参加するユニークな組織で、メンバーの学生たちは毎年変わるものの、この理念とビジョンは引き継がれています。



秋尾理事長と元奨学生

毎年、チャリティースポーツフェスティバルを開催し、そこで集まったお金を基に、カンボジアの中学生へダルニー奨学金を提供しています。そのご縁で大学生たちがカンボジアを訪問し、学校で運動会を開催してきました。コロナ禍で交流は減ったものの、今年は現在高校生である元奨学生たちを日本に招聘しました。2人とも農村地帯の貧困家庭で祖父母と一緒に暮らしている子どもたちです。訪日は彼女たちにとって夢物語だったに違いありません。運動会に参加した日本の学生たちに温かく迎えられ、2人の人生にとって最高の日々だったのではないのでしょうか。

何故、カンボジアの 学校で運動会か？

民際センターの英語名は EDF (Education for Development Foundation)で、直訳すると「地域開発教育基金」です。農村部の貧しい子どもたちが教育を受けて、将来、生まれ育った村の発展に貢献する。即ち、「地域おこし」の担い手になり、貧困から抜け出すという願いを込めて命名しました。

カンボジア事業所の所長は、ポルポト時代を経験した生き証人です。彼と一緒にカンボジアの村々を訪問した時に、タイのような地域おこしが無いことに気づきました。それどころか、ポルポト時代に隣人の告げ口でひどい目にあった歴史があるせいか、「俺が村」という村意識や連帯感が感じられませんでした。

彼がテレビで日本の十人十一脚の対抗試合を見た際に、カンボジアでも運動会ができれば仲間意識が生まれ、それだけに留まらず次世代に於いて、「俺が村」という意識が醸成できるかもしれないと私に夢を語ったことがありました。これがきっかけとなり、その数年後の SWITCHとの出会いから、カンボジアでの運動会が始まったのです。(秋尾晃正)



運動会の様子



～フェートくんに会いに～

ダルニー奨学金支援者の中には、奨学生に会うために現地を訪れる方もいらっしゃいます。今回は2023年8月にウドンタニ県に行かれた細川様のタイ訪問記をお届けします。



タイ訪問記 細川もなみ

フェートくんは、14歳にしては思った以上に小柄で、はにかんだ笑顔のかわいいシャイな男の子でした。お母さんは彼が小さい頃に離婚し、今は隣のノンカーイ県で仕事をしているので、彼は一つ上のお兄さんと一緒に、お寺の僧侶であるお祖父さんとお寺の敷地内の家で暮らしていました。好きな教科は英語で、将来はコンピュータエンジニアになりたいので、中学を卒業したら専門学校に行きたいそうです。まだ中学2年生なのに、しっかり将来のことを考えていて、緊張しながらも学校や家のことを一生懸命自分の言葉で説明してくれて、感激でした。お土産にポケモンのお菓子を渡した時と、最後に日本語で「ありがとう」と言ってくれた時の、特大スマイルが忘れられません。あらためて、どんな国でどんな家庭に生まれ育っても、子どもが子どもらしく生きられ、教育を受けて自立できる、そんな世界（社会）にして行きたい、そのために、私にできることを積み重ねていきたい、そう思わせてくれました。また、学校の先生にもお会いしてたくさんお話ができ、子どもたちのために文字通り身を粉にして働かれている様子を知り、この先生になら奨学金を託しても大丈夫、と安心することができました。

私の民際センターへの寄付は恥ずかしいくらいわずかなものですが、フェートくんの笑顔を励みに、今後もできる限り続けていきたいと思います。

この度の機会を与えてくださった民際センター、調整してくださったスタッフの方々、学校の先生、その他関係者の皆さまに感謝いたします。



お問合せ先

奨学生訪問をご希望される場合は、下記フォームもしくはQRコードよりお問合せください。

<https://www.minsai.org/request/>



【民際センターの職員紹介】

現在、民際センターの事務局では7名の職員が働いています。メコン5カ国の奨学金支援や各プロジェクトを支えるには少ない人数ではありますが、メコン5カ国の子どもたちのことを日々考え、皆様からのご寄付を子どもたちに届けることができるように、熱心に業務に取り組んでいます。どうぞ職員一同よろしくお願いいたします。

(紹介項目：①出身地 ②趣味 ③好きな言葉 ④国際協力に目覚めたきっかけ ⑤一言)

ファンドレーザ(資金調達・広報)

米澤 輝美



- ① 大阪府大東市
- ② ゴスペル、自然散策、旅行
- ③ 全てに感謝
- ④ 大学時代、東南アジアやヨーロッパを巡ったバックパッカーの経験
- ⑤ メコン5カ国や子どもたちのことをもっと知って、皆様にお伝えしていきたいです。

ICT(システム・IT関連)

ダンヴェット チョウ



- ① ベトナム
- ② ランニング
- ③ 河童の川流 継続は力なり
- ④ 大学生時代、友人グループで、障害がある生徒1人を高校卒業まで支援したこと
- ⑤ ベトナムでは、特に農村地域や少数民族が暮らす地区に、経済的な理由で学校へ通えない子どもたちが沢山います。その子どもたちが貧困の連鎖から脱却するためには教育が必要です。一人でも多くの子どもに支援を届けたいです。

林 もも子



- ① 群馬
- ② ドライブ
- ③ 失敗は成功のもと
- ④ 官民両方で勤務してみて、売上重視でない社会貢献がしたいと思った
- ⑤ いつもご支援ありがとうございます！

藏田 千鶴



- ① 東京
- ② 三味線(出囃子)
- ③ 答えは必ずある
- ④ ネイティブアメリカンとの文通経験
- ⑤ たくさんある支援団体の中から民際センターを選んでくださってありがとうございます。皆様とのご縁を大事に日々の業務に励んでいきたいです。

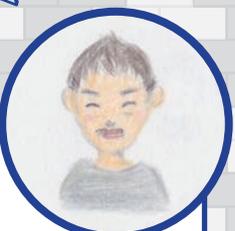
高野 リマ



- ① 北海道
- ② 映画鑑賞
- ③ where I lay my head is home
- ④ 2002年ごろの中国訪問
- ⑤ メコン5ヶ国についてなんでもお問合せください。

総務経理

森田 晃



- ① 東京都葛飾柴又
- ② 音楽、波乗り
- ③ 三歩進んで二歩下がる
- ④ 民際センター
- ⑤ 教育支援活動を通して貧困削減と平和構築のためにがんばります。

オペレーション(事務)

藤江 愛香



- ① 埼玉
- ② 映画鑑賞、料理
- ③ 力なき正義は無能なり
- ④ 両親の影響で人を助ける仕事をしたいと思ったため
- ⑤ いつもあたたかいメッセージやお手紙など拝見させていただいております。「民」と「民」をつなげ、世界の貧困削減と平和構築を私たち「民際センター」から目指していきます。



活動を支えてくださる
大切なボランティアさんがたくさんいますが、
今回以下の3名をご紹介します。

- ① 住んでいる地域
- ② 趣味
- ③ 座右の銘
- ④ ボランティアを始めたきっかけ
- ⑤ ボランティア内容
- ⑥ 感想



● 川村 藤江さん

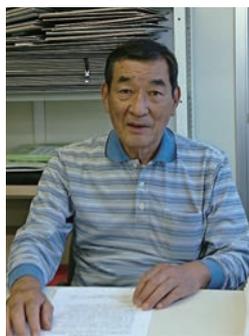
- ① 東京都世田谷区
- ② 植物を育てること、山登り、読書
- ③ のんびり楽しく努力
- ④ 退職をきっかけに。前から何かお手伝いすることがないかと思っていました
- ⑤ 封入作業、切手貼り、その他
- ⑥ 民際センターの教育支援



には日本全国のたくさんの方が、それぞれの人生や事情を抱えながら関わってくださることを実感しました。また、民際の職員の方々がそれらに丁寧に対応しながら、より良い方向に進めようとしている姿に頭が下がります。尊い仕事だと思います。

● 河野 勝弘さん

- ① 千葉県船橋市
- ② 能鑑賞、日大スポーツ観戦&応援（野球・陸上・駅伝）
- ③ 初心に戻る、正しく生きる
- ④ かつての自分のようにお金がなくて学校に行けない子どもたちに何かしたいと思っていました。約20年前にタイのダルニーさんが千葉に来られて、その話を聞いて民際センターを知り、支援とボランティアを始めました。
- ⑤ 封入作業、切手貼り



⑥ 人の名前や地名の由来を調べるのが好きなので、ボランティアで封入作業をする時に、住所・名前を見てどの辺に住んでいるかを想像するのが楽しいです。自分のしていることが少しでも人の役に立っていれば大変嬉しいです。なるべく長くやりたいと思っています。

● 神田 麻里亜さん

- ① 東京都葛飾区
- ② 音楽
- ③ 行雲流水
- ④ 学生の頃から途上国の教育環境などに興味があり、偶然ネットニュースで民際センターの記事を見かけ、お手伝いしてみたい！と思い翌日電話で問合せしました。
- ⑤ 郵便振込の寄付のデータチェック作業
- ⑥ 私がお手伝いさせていただいていることはほんの些細な事ですが、途上国の子どもたちや支援者の皆さんとの繋がりを感じられて嬉しいです。



◎ 神田さんの本業はバッグのデザイナーです。

民際センターでは、活動に加わってくださるボランティアやプロボノの方を随時募集しております。直接事務局にお越しいただくこともできますし、オンラインでも参加できますので、ご興味のある方はこちらをご覧ください。

<https://www.minsai.org/volunteer/>



プロボノ募集

民際センターの活動開始時から、プロボノ（専門家がそのスキルや知識を無償で提供する活動のこと）の力をお借りしてきました。当時 IT 関連の最先端技術を駆使した基盤システムを構築し、現在でもそれが稼働しています。



【最初のプロボノ神村さんの体験談】

朝日新聞記事でダルニー奨学金を見つけ、丁度子どもが生まれた頃で、寄付先の子どもが成人するまでと、家内が寄付をはじめました。その後民際センターからの郵便物の中に、IT 関連のサポーター募集があり、家内が勝手に応募したのがプロボノをはじめたきっかけでした。

苦労はほとんどなく、毎週末、青山や飯田橋の事務所で、他の2人のサポーターと会い、設立当初全て手作業で実施していた部分を段階的にシステム化していきました。設計担当、プログラミング担当と作業を分担して進めていきました。

当時、大型コンピューターの SE（システム・エンジニア）でしたので、PC 上で設計・開発し、作成したプログラムが稼働していくのを見るのは楽しい時間でした。自分の知識が生かせるという点では、手ごたえもあり、やりがいを感じていました。

今、私たちは再び変革の時を迎え、時代とともに変化し進化する社会のニーズに対応するため、新しい寄付形態や多様な取り組みへの迅速な対応が求められています。ここで、再び「プロボノ」の力をお借りしたいと考えています。日本においても、多くの企業や個人が社会貢献の一環として参加しています。このプロボノの波をさらに大きくし、日本全体が参加型社会となっていくための先駆けになりたいと考えています。

あなたのスキル、知識、そして情熱が、これからの私たちの活動に新たな道を開くかもしれません。私たちと一緒に、新しい時代の社会貢献の形を築いてみませんか。

アジアの子どもたちを支え、日本のプロボノ文化の発展を共に前進させることで、社会をより良くするための新しいスタンダードを作り上げていきましょう。

プロボノについては下記よりお問合せください。

<https://www.minsai.org/request/>



「起承転結」から「結起承」



民際センターの設立者である理事長の秋尾晃正が、設立当初からの歴史を振り返って執筆する連載。今回は、タイでダルニー奨学金がスタートした時に起こった想定外の出来事の話です。

ダルニー奨学金事業開始から間もない1988年頃。タイから始まった奨学金支援でしたが、現地スタッフは日本語が話せず、日本文化を知りませんでした。私もタイ語ができず、タイ文化を知らなかったため、共通語は英語でした。お互い英語は母語でないため、まず母語で考え、それを英語に置き換えて相手に伝えるというのが、当時の現地との意思疎通方法でした。

最初にタイ事業所で所長を務めた女性は、海外留学経験はありませんでしたが、大卒の知識人で英語ができました。しかし実際の奨学金事業が進むにつれて直接の対話が多くなり、課題が露呈しました。彼女の説明は「起承転結」で構成され、「起」でタイの実情、「承」で事業概要、「転」で他団体の事例、「結」で実施したい事業の要求、という流れだったと思います。しかし「起」で話されるタイの実情は、彼女にとっては常識でも、私にとっては知らないことばかり。英語の不十分さも

あり、なかなか「承」の段階に進まず、意思疎通に支障をきたしていました。その後ルールを決め、「結→起→承」の順で説明する方法を採用することになりましたが、こちらもなかなか一朝一夕にはいきませんでした。

月日は流れ、タイの事業所所長も二度ほど変わりましたが、現在はサンペットが務め、円滑に事業を運営しています。最初の所長は理事に就任し、大所高所から意見を述べてくれています。タイでは海外留学生が増え、名実ともに国際化しました。タイ事業所のスタッフたちは現在、序論(Introduction)、本論(Body)、結論(Conclusion)の三部構成でプレゼン資料を作成するなど、素晴らしい人材が育っています。

マイ・ページをご利用ください

マイ・ページは、支援者様と奨学生、そして民際センターとのコミュニケーションを劇的に向上させるためのツールです。ご利用いただくことで、今までメールやお電話にて都度ご依頼をいただいていた支援者様の住所、電話番号、領収書発行先などのご登録情報の変更が、ご自身で可能になります。また、年に2回のEDFグループからの郵送物でしか確認することができなかった支援履歴、支援状況表、奨学生写真等を、PC又はスマートフォン、タブレットから確認することができます。未登録の方は是非とも、ご活用ください。

ご登録方法について www.minsai.org/oshirase/mypage

プロボノ募集中

この度、プロボノを募集いたします。Adobe Illustratorを用いて広報資料(チラシやパンフレット)をデザインしてくださる方や、動画制作、動画編集ができる方を特に募集しています。その他、栄養士(プロジェクト関連でご助言いただける方)も募集しています。ご興味のある方は、民際センターまでお問い合わせください。

HP <https://www.minsai.org/volunteer>

「支援者の声」を募集しています

皆様の声を民際センターのホームページ「支援者の声」(www.minsai.org/activity/voice)やダルニー通信等でご紹介させていただきます。ご支援された経緯、奨学生とのエピソード等、文章、動画、何でも結構です。事務局までお寄せください。

民際センターを紹介してください

皆様のブログ、SNS、ホームページなどで民際センターを紹介してください。ロゴや写真、記事の提供などは、事務局へご依頼ください。

事務局Q&A

- Q** 忘れずに支援するためにはどのような方法がありますか?
A - クレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。
- Q** 友人が「ダルニー奨学金の寄付を始めてみたい」と言っています。詳しい説明を聞くことができますか?
A - お電話やメールでお問合せください。また、事前にご連絡いただけましたらオンライン会議システムなどにより職員が直接ご説明いたします。
- Q** 終活を一緒に考えてくれますか?
A - 相続による寄付、遺言書の書き方などの遺贈について、ご支援者様のご要望をお聞きしながら、専門家を交え一緒に考えさせていただきます。遺贈寄付のお悩み、ご質問にワンストップでお手伝いします。是非ご相談ください。
- Q** 支援している奨学生に会いに行くことはできますか?
A - 基本的に可能ですが、各国の状況によります。訪問される場合は、必ず事前に民際センターにご連絡ください。現地事業所から各国の政府機関に申請し、許可が必要な場合があります。
- Q** 民際センターは、メコン5カ国を支援していますが、どの国を支援して良いのかわかりません。どの国が一番支援を必要としていますか?
A - 民際センターが支援しているメコン5カ国の農村地域などはいずれも貧しく支援を必要としています。毎年の支援状況により国毎に不足の程度が変わりますので、その都度お問合せください。もしくは、ご支援の際に「一番支援が必要な国」とご明記ください。

編集 後記

世界情勢を見ても変化の大きい時代ですが、民際センターの小さな組織の中でも様々な変化があり、その中で見えてきた一つ一つの課題に誠実に職員一同取り組みたいと思っています。7名の職員だけではできないことも、現在インターンの学生さんが継続して関わってくれたり、ボランティアさん、プロボノさんも新たに加わって下さったり、嬉しい変化も感じています。支援者の皆様はじめ、関わってくださる皆様に感謝しています。

表紙の写真

笑顔の子どもたち
(カンボジア)



活動をご覧いただけます

facebook.com/minsai.org
twitter.com/minsaiorg
instagram.com/edf_japan

郵便振替でのご支援は こちらからお願いします

ゆうちょ銀行
振替口座

00160-7-664928

▶ 「ダルニー」とは… 民際センターが奨学金を募り1対1の教育支援を始めるきっかけとなったタイの女の子の名前。
ダルニー通信93号 2023年12月1日発行 発行人：秋尾晃正 | このダルニー通信は2023年10月に編集されました。



公益財団法人

民際センター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F

TEL : 03-6457-5782 / FAX : 03-6457-5783 / MAIL : info@minsai.org / HP : www.minsai.org